

消防学校 ニュース

平成30年10月9日発行



こんなこともありました！(9月中旬～10月初旬)編 キーワードは「慰霊」と「台風」

消防職務遂行中に殉職された県内の消防職員と消防団員計 231 柱の御霊の冥福を祈る「静岡県消防殉職者慰霊祭」(静岡県消防協会、静岡県消防長会主催)が9月15日(土)、静岡市駿河区のグランシップで営まれ、御遺族や消防関係者など約 300 人が参列しました。

この慰霊祭は、静岡県消防学校に最初に顕彰碑が建立された昭和 41 年(1966 年)10月18日を第1回慰霊祭としてカウントし、昭和45年(1970年)2月16日の第4回以降は4年に1回開催しており、今年を通算16回目となります。



澤野 岳志 静岡県消防学校長

第16回静岡県消防殉職者慰霊祭

「献花」の様子



主催者挨拶
村田吉伸 静岡県消防長会会長

主催者を代表して、松浦文信 静岡県消防協会会長が祭文を奏上されました。参列者全員で黙とうを捧げ、祭壇に献花して殉職者を偲びました。

終了時には主催者から「消防殉職者顕彰碑のある県消防学校は、本日校門を開放しているので参拝可能」の旨が案内されました。



御遺族の皆様

9月15日の県慰霊祭に合わせて、消防学校の顕彰碑には花籠、校門には案内看板が設置され、慰霊祭前後の顕彰碑参拝への準備が整いました。慰霊祭当日には学校の慰霊の式で献花した花束も供えられ、課長2人が1日案内役を務めました。

静岡県消防学校『慰霊の式』

県慰霊祭を翌日に控えた9月14日(金)の朝、消防学校行事として「慰霊の式」を執り行いました。

天候はあいにくの雨模様、やむを得ず会場を屋内訓練場とし、学校職員と在校している初任科第 89 期生が「静岡県消防殉職者顕彰碑」に向かう形で整列しました。

澤野学校長から、県慰霊祭の開催に合わせて、顕彰碑が建立されている消防学校として殉職された消防団員・消防職員の皆さんの功績をたたえ、その御霊を慰めるという式の目的が説明され、慰霊祭や顕彰碑の歴史も紹介されました。



全員で黙とうを捧げた後、教官代表による慰霊の言葉、職員と初任科生の代表による献花を行い、式を終えました。

顕彰碑の裏側には殉職者の氏名が刻まれています。先の大戦で空襲時に殉職された方、昭和 33 年の狩野川台風で殉職された方、昭和 55 年の静岡駅ゴールデン街爆発事故により殉職された方、そして最も新しいお名前は平成 20 年、消防学校の野外訓練中に殉職された方のもの…全部で 231 人分新たな名前が刻まれないことを心からお祈りいたします。



「静岡県消防殉職者慰霊祭」と 「静岡県消防殉職者顕彰碑」

消防学校の長い歴史の中で、昭和56年3月13日に静岡県消防の歴史を集録した『静岡県消防のあゆみ』を、昭和58年2月25日に『続・静岡県消防のあゆみ』を出版している。

前書は、わが国の火災の歴史、わが国の消防制度の沿革、静岡県消防の歴史、消防に関する資料編で構成し、総論的な内容となっている。

一方、後書は、その当時の県下75市町村それぞれの江戸時代から現在までの消防の沿革、本県消防の発展に大きく貢献された諸先輩の功績、消防殉職者のあらし、本県消防人教育の沿革、静岡県消防学校のあゆみといった各論的な内容で構成されている。

今回、当ニュースで静岡県消防殉職者の慰霊祭、顕彰碑について紹介をするに当たっては、『続・静岡県消防のあゆみ』に記載されている消防殉職者のあらしから抜粋（一部補記）したものを掲載した。上記2冊の出版に携わった当時の石田 貞義 消防学校長（第10代、昭和54年4月～昭和58年3月）の功績の大きさもこの機に皆様にご覧いただきたい。

◆静岡県消防殉職者慰霊祭の沿革

『続・静岡県消防のあゆみ』の「第3章 本県の消防殉職者」の書き出しはこうである。

「明治以来本年まで、有事の際一身一家を顧みず旺盛なる消防精神を発揮し、業務を遂行中に尊い一命を捧げられた本県の殉職者の方は219名の多きに達している。これらの方々は現在静岡県消防学校にある「静岡県消防殉職者顕彰碑」に合祀されている。…」

また、同章「第3節 静岡県消防殉職者慰霊祭の沿革」はこう始まっている。

「静岡県消防学校（静岡市城北240-12）の中庭には昭和41年10月に建立された「静岡県消防殉職者顕彰碑」があり、4年に1度、御遺族をはじめ、知事、市町村長、消防関係者等が参列し、厳粛かつ盛大に慰霊祭が執り行われている。また日頃顕彰碑とその周辺の清掃は消防学校職員と在校生によって行っているが、昭和54年10月からは毎月第1火曜日を慰霊の日と定め、職員・在校生が碑前に整列し生花を献じ黙とうを捧げ、殉職者の冥福を祈っている。なお、黒御影石の碑の裏側には殉職者の氏名、市町村名が銅版に刻まれている。」

以下、沿革の内容である。

「消防事業がようやく県民に理解され、消防組員として、その使命を果たすため不幸にして殉職された尊い犠牲者に対して、その霊を弔うことは、消防精神の涵養上きわめて有意義なことである。」という世論が盛り上がってきたのは昭和初年のこと。消防殉職者に対する初めての慰霊祭は、昭和2年（1927年）4月10日、当時の県立志太中学校、現在の藤枝東高等学校の校庭で第7回静岡県消防組頭大会が開催された際に行われた第1回の招魂祭である。

当日祀られた殉職者は明治29年12月18日に殉職された錦田村（三島市）消防組の消防手、佐野竹次郎氏以下22名であり、この日合祀された殉職者は大正15年3月21日までに殉職された方々であった。

第1回の招魂祭が行われて8年を経過した昭和10年6月14日に静岡県警察官及び消防組合殉職者の功績をたたえ、その御霊を慰めるため、静岡県庁敷地内に『彰徳神社』が建立された。伊勢神宮風の檜造りの鳥居があり、境内は板塀で囲まれ、玉石が敷き詰められていた。

その後、支那事変・太平洋戦争と戦火が拡大し、戦争も終局に近づいた昭和20年6月19日夜半から20日未明にかけて、静岡市は大空襲を受け、全市内は廃墟に帰し、彰徳神社も焼失した。しかし幸い同神社に祀られていた御霊は関係者の働きによって難を免れ、昭和21年9月20日、静岡市七間町の別雷（いかづち）神社に移転遷座された。

昭和23年消防組織法が施行された3月7日は消防記念日であるが、満9周年を迎えた本県消防は、昭和32年3月7日第2回消防殉職者合同慰霊祭及び消防団連合演習を静岡市の駿府公園において開催した。

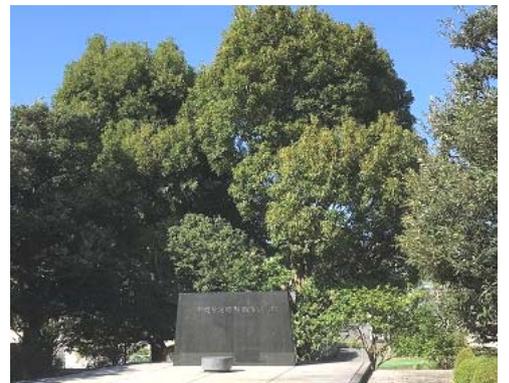
昭和41年（1966年）4月、消防の発展とともに消防教育の充実強化を図るため手狭になっていた消防学校（静岡市緑町、現在たちばな会館の敷地）を静岡市城北へ移転新築する工事が完了し、同年10月には移転先の中庭へ総工費250万円をもって『静岡県消防殉職者顕彰碑』を建立した。

同年10月18日に除幕式と慰霊祭を行い、153名の殉職者が合祀された。また、これに伴い、別雷（いかづち）神社内に祀られていた御霊も昭和46年（1971年）7月24日にいったん静岡浅間神社に遷座されたのち、消防学校に移転遷座された。

その後、静岡市城北の消防学校も老朽化したため、昭和60年（1985年）に現在の清水区谷津町に新築移転し、顕彰碑も同時に移転遷座され、現在に至っている。



現「静岡県消防学校」
（静岡市清水区谷津町）の配置図



【県】新規採用職員研修(危機管理講座)



- ① 9月26日(水) 72名
- ② 9月27日(木) 63名
- ③ 9月28日(金) 75名



県新規採用職員研修の「危機管理講座」は、3グループに分かれて、それぞれ2日間実施します。第1日は静岡県地震防災センターにおいて「静岡県の地震対策」についての講義と施設体験、静岡市消防局職員による“救急救命講座”が実施され、第2日は消防学校における各種訓練の体験という構成になっています。消防学校では教官8人態勢で3日間、『厳しく・優しく・親切に』指導しますが、女性職員が多いせいか“厳しく”が影を潜めがち…とか。



災害の現場で要求される
厳正な規律の保持と
迅速的確で秩序ある行動
—ここでは県職員として
最低限必要な規律動作を
習得しよう！

規律訓練



濃煙避難訓練

煙による無視界状態等を体験！
ちょっと待て！
その前に“火災時の避難要領”や
“煙の中の行動”等基礎を
しっかり勉強しよう！



各種搬送法

効率的に傷病者、
要救助者等を搬送する
方法を習得しよう！
身の回りにあるものも
使ってみよう！

〈新採アンケート結果〉
回答者数:181人(①~③)

理解度	よく理解できた	
	140人	77.3%
進め方	適切だった	
	156人	86.2%
資料教材	適切だった	
	139人	76.8%
時間数	ちょうどよかった	
	158人	87.3%

屋内消火栓による放水

屋内消火栓の機能、取扱方法を学び、
放水体験を通じて初期消火の方法を習得しよう！



使い方により大変有用な道具となる
ロープ —日常生活にも応用できる
ロープ結索の基本を習得しよう！

ロープ結索訓練



〈新採アンケート結果〉

『特に勉強になった訓練項目』(複数選択可)

規律訓練	濃煙避難	各種搬送法	屋内消火栓	ホース搬送	ロープ結索
37人	47人	101人	29人	15人	25人

「各種搬送法」の選択理由

- 様々な場面で役立ちそう。
- 実際に使う可能性が高いと思った。
- 災害時にすぐ使用できると感じた。
- 普段の生活の中では決して学べないものだった。

お断り「ロープ結索訓練」は、①天候等により「ホース搬送・体力錬成」が実施困難なとき、
②新規採用職員の事情によりホース搬送訓練に参加できないとき、に実施。
第1回は①に該当し、全員でホース搬送に代えてロープ結索を実施。

ホース搬送&体力錬成



屋内訓練場へ集合
少し気が重いかな...



ホースの重さ、担ぎ方、そして
災害時に必要な体力を確認しよう！



※新規採用職員のための今回の研修
に対する評価・感想(自由記述)
を一部紹介します。



静岡県消防殉職者顕彰碑

整列！「静岡県消防殉職者顕彰碑」に敬礼！



ホース担げえ！



消防隊員の話の
聞き、過酷さを知り、
気持ちが引き締まった。

消防の方々の仕事に対する
向き合い方を知った。

最後、
走ってこそ
「危機管理研修」
走る...



この辺りで本格的な体力錬成

スタワッ!!

厳しかったが、
教官の真剣さが
身にしみた。
自分も本気で
研修に取り組めた。



走る...



登る...



登る...



走る...

体力的には
辛いものがあった。
自身の体力不足を
感じた。



登る...

いざという時に動ける人
になりたいと思った。



走る...



走る...

防災靴や軍手を着用して訓練を行う
ことは想像以上に体力が要ることだと
実感した。

厳しい訓練を通して、自分の甘さと
精神力の無さを再認識できた。

消防学校もやられました…

台風24号 の爪痕



9月26日が『台風襲来の日』(1954年「洞爺丸台風」で洞爺丸転覆、1958年「狩野川台風」来襲、1959年「伊勢湾台風」上陸)といわれるように、9月下旬は日本列島に上陸する台風が多い。

今年も大型で非常に強い台風24号が勢力を維持したまま列島を縦断した。台風一過の10月1日(月)、登校した学校職員らは唖然…。何かしらの台風被害は予想したものの、暴風の爪痕か、北寮前の立派な木は見事に倒れ、南寮の大時計はねじ上げられた形で、写真のような有り様。

倒木は1週間後に復活、大時計は落下の恐れもあり、すぐに撤去したが、予算の関係で新時計は未だ掛からず。

全国的な被害状況からすれば、この程度で済んで良かったのか…な。



台風 といえはば…

昭和33年(1958年)9月26日、伊豆半島を襲った台風22号(狩野川台風)では、狩野川流域だけで死者・行方不明者853人を数え、堤防の決壊や橋の倒壊により激流が多くの家屋を飲み込み、流域で全壊・流失958戸、半壊647戸、床上浸水3,012戸という甚大な被害が発生した。…今年でちょうど60年。

狩野川台風では、旧天城湯ヶ島町(現伊豆市)湯ヶ島で1時間当たり120ミリの雨量を観測するなど、15時間にわたり700ミリ以上の大雨が降った。14か所で堤防決壊が起きるなど狩野川が氾濫し、発生が夜間だったことが人的被害を大きくしたとされる。

今年も平成最悪の豪雨災害となった「平成30年7月豪雨」が起きている。本県東部に大きな爪痕を残した狩野川台風の記録と記憶を風化させてはいけない。



公演会場のホールでは「狩野川台風写真展」として当時の生々しい写真の数々が展示された。

今こそ語り継ごう 60年前、何が起こったのか

狩野川台風の悲惨さや命の尊さを伝える劇の公演『狩野川台風』(伊豆市、伊豆市狩野川台風60年公演実行委員会主催、劇団DAN共催)が9月22、23の両日、伊豆市修善寺総合会館で開かれた。上演された劇は、狩野川の氾濫で住民の約3割が死亡した修善寺町(現伊豆市)熊坂地区が舞台。伊豆の国市を中心に活動する「劇団DAN」の団員を主体に、公募で集まった伊豆市の小中学生や他の劇団員などを加えた約40人が迫真の演技で観客を引き込んだ。

(ストーリー:抜粋)

60年前、智子は修善寺の熊坂で過ごしていた。明るい家族、仲良しの友達、信頼できる大好きな先生。楽しい中2の日々。…9月26日、運命の日を迎える。その日は朝から大雨で学校は途中で臨時休校となる。来週県大会を控えた智子達は練習をやりたい。しかし先生は言った。「今日は我慢しろ。明日は晴れて練習できるから。明日は必ず来るから」…しかし、明日は来なかった…

開演に先立ち、菊池豊伊豆市長が挨拶された。(小野登志子伊豆の国市長も観客席に)「大災害の後、護岸工事等対策が進められた。しかし、狩野川台風以降、それに匹敵する、或いはそれ以上の台風は来っていない。果たして大丈夫なのか…分からない…住民の皆さんは“まず、逃げる、避難を”」

伊豆市狩野川台風60年公演

今こそ語り継ごう
六十年前、何が起こったのか

狩野川台風

平成30年9月22日(土) 開場 17:30 開演 18:30
23日(日) 開場 12:30 開演 13:30

修善寺総合会館 全席自由席
前売500円 当日券700円



この作品に出会って15年かな。韭山、三島、そして修善寺。4回目、いや5回目?その都度、脚本・演出を手掛ける劇団DAN 松井清高 代表の強いメッセージが心に響く。一所懸命に舞台上で演じた小中学生ら…ローカルだけど、とても熱い「力」が感じられた。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索